

●題名

2016年8月13日土曜 大源太川七ツ小屋裏沢

●参加者

松村(リーダー、記録)、上小牧、細野、小濱

●記録 (*沢の写真は無し)

七ツ小屋裏沢は大源太川の支流である。沢の下部はゴルジュになっており手強い滝がいくつかあった。その後は明るい雰囲気になる。進むにつれて次第にヤブっぽくなり、最後は背丈ほどの笹をヤブ漕ぎした。遡行距離が3kmと長いのと、高巻きとヤブ漕ぎがあったので、ヘロヘロになった。

溪は酒ということで越後湯沢に前泊する。公園にテントを張ったが、綺麗な芝生があり快適であった。たまたまペルセウス流星群の極大日であったため、上小牧は、芝生に寝転がって歯ブラシをしながら星を見ていたら、そのまま寝入ってしまったようだ。翌朝、芝生の上に上小牧がいつもポケットに入れている歯ブラシが落ちていた。細野と小濱は足湯で語らい、眠りに着いたのは2時過ぎだったようだ。ワインとブランデーを飲みすぎた。

いつものように寝不足で入溪する(7時30分ごろ)。北沢本谷は開けた沢でゴーロっぽい。七ツ小屋裏沢に入ると、途中からゴルジュ地形になる。

チョックストーンがはさまった4m滝は、1人を踏み台にして登ろうとしても、前が見えないほど顔に水を浴びてしまうので登れなかつた(特にメガネの松村は手も足も出なかつた)。手詰まりかと思ったその時、なんと、細野がチョックストーン裏にルートを見出して、そこからロープなしで突破できた。

ゴルジュ出口の6m滝・6m滝・12m滝は高巻いた。左岸のルンゼを登るが、途中から岩壁状になつたためトラバースできず、かなり高くまで追いやられる。トラバースと2回の斜め懸垂(50mロープ1本)を交えて進み、そこから3つ隣のルンゼをクライムダウンして12m滝の落ち口に降りた。4人ということもあり2時間もタイムロスしてしまつた。右岸の側壁をトラバースした場合は、懸垂が不要そつたが、12m滝の手前は支点のとれない草付のスラブに見えたので、緊張する登攀になりそうだ。

それ以降は沢が開放的な雰囲気になり楽しく登る。途中、1200mあたりで左から入つてくる枝沢(出会いに6m滝を掛け)の水量が多く、一度枝沢を偵察するなど進路に悩んだ。

7m滝は右岸から巻く。滝上から岩がヌメリ出し、草木が煩くなつてくる。上からヤブが被さつてきて這つて進むようになるので、上小牧以外はヤブの薄そうな右の枝沢に進んだ。結局、その枝沢も笹の中に消えてしまい、背丈ほどの笹をつかみながら、さらにはシャクナゲのヤブを右へ左へと避けながら登る。登山道の近くまでくると笹が低くなり、200mほど左にヤブ漕ぎする上小牧のヘルメットが見えた。結局、1時間程度ヤブを漕いだだろうか。登山道で15分ほど待つてはいるが上小牧が追いついてきたので休憩する(14時30分ごろ)。

シシゴヤの頭を経由して下山する。稜線からは大源太山がよく見えた。途中、チタケがたくさん生えていたが採る人がいないようだ。17時過ぎに駐車場着。

岩の湯で入浴した後、越後湯沢駅前まで食事。新婚の小濱はお土産に地酒の「緑川」を買つていて。



←遡行前夜の七ツ小屋裏沢(左)と和名倉沢(右)の面々(撮影者を除く)。場所は違えどもやることは同じ…。